

金の斧と 銀の斧





あるところに、正直者の樵がおりました。
森で木を切っていたとき手がすべって、
斧を湖の中へ落としてしまいました。
湖はたいそう深く、
いくらのもぞいても見当たりません。
「斧が無くては木を切ることが出来ない。
困ったなあ。」

湖

樵

木

切り株

斧の 樵



神様

金の斧



突然湖の中から白い着物の老人が現れ、「私は湖の神だ。おまえの斧を捜してやろう。」

そう仰って湖の中へ消えて行かれました。

まもなく、美しい金の斧を持って樵の前に立たれ、

「これがお前の落とした斧か。」

とお尋ねになりました。

「いいえ、違います。」

捜す
仰る